

教養課程『これからの歯科技工と展望』

私たちが歯科技工の職業に従事することによって、いわゆる「社会人」となり、その医療活動を通じて社会に寄与・貢献することができると思う。また個人が職業について働くのは、暮らしを立て、自らの生計や家計を維持するためばかりでなく、歯科技工を通じて歯科医療活動を遂行する中で、自己の能力や個性、持ち味等を活かしたり、発揮したりしており、そのことによって働きがいを感じ、充実した歯科技工人生を送ることができるのであると思う。

そのためには、ライフワークとしての歯科技工に自己の能力や個性、持ち味等を活かすことが大切となる。

専門課程『義歯の咬合とデジタルデンチャーを考える』

超高齢社会を迎え高齢者歯科医療と共に在宅・訪問介護の歯科医療も増加傾向になって来ているようである。歯科医療ニーズの動向によると、在宅歯科医療の摂食嚥下といった高齢者歯科医療の充実が求められ、義歯の質的需要が高度化して来ています。また、歯科医療現場も高度に発達した歯科医療技術の進歩により、歯が喪失した無歯顎者の疾病構造も著しく変化してきていると思われます。そのような状況下、義歯製作もより簡便で、客観的な根拠や効率的な製作システムと供給体制が必要と考えます。今回は“二義的人工臓器義歯”とネーミングした製作システムの紹介と解説を行い、さらに義歯の咬合について考察し、無歯顎臨床で最も重要な要素である印象採得・咬合採得から得られた模型を分析し正確に咬合器装着を行い、人工歯排列と咬合について講演する予定です。無歯顎補綴の仮想咬合平面の設定基準は、歯冠修復・インプラント補綴も同様に大切である咬合平面について考察したいと考えています。症例を担当する歯科医師の診査診断による治療計画を基に、歯科技工士・歯科衛生士も共有し、各ステップを慎重に進められることが重要であります。印象体を大別すると、概形印象体と機能印象体に分類され模型上に表現された組織を十分に熟知し、臨床模型の分析及び解析することが重要な鍵となります。そこで仮想咬合位(Virtual Intercuspal Position)と仮想咬合平面(Tentative Occlusal Plane)の考察が重要となります。解剖学・発生学・生理学から異なる臨床症例に対する咬合平面の設定と咬合彎曲の与え方について生理学的、力学的に考慮した適切な部位に人工歯排列を行い、筋組織と口腔内に調和した咬合と咬合様式を付与することが重要であります。最後に時間が許せばデジタルデンチャーについて考察し、時間の許す限り聴講していただいた皆様と共に有意義な講演会になれば幸いです。